392
162

帙入一冊

滿洲國皇帝陛下奉迎記念誌

始

滿洲國皇帝陛下奉迎記念誌

序

滿洲國皇帝陛下ノ御來訪ハ擧國熱望シテ止マナカツタ處デアリマスガ、一國ノ元首ガ公式ニ我ガ皇室ヲ訪問シテ、御交歡アラセラレタルガ如キハ三千年ニ垂ントスル我ガ帝國ノ歷史上未曾有ノコトノミナラズ、實ニ東洋史上空前ノ御盛儀デアリ、且ハ靑史ニ一新紀元ヲ劃サレタル極メテ有意義ノ御盛事ト謂ハナケレバナリマセン。

昭和十年四月二十一日　滿洲國皇帝陛下ニハ國都新京ニ御歸還ノ途、蹕ヲ武庫離宮ニ駐メサセラレ御靜養遊バ

サレマシタル御事ハ、本市九十萬市民ノ類ナキ光榮トシテ誠ニ感佩恐懼ニ堪ヘナイ次第デアリマス。

此ノ光榮ヲ相傳ヘテ永ク銘記センガタメ、茲ニ奉迎ノ盛儀ヲ錄シテ上梓スルコトニナリマシタ。

希クバ本誌ヲ謹閲セラレ　皇帝陛下ノ御盛德ヲ欽仰シ今後一層日滿兩國ガ相提携シ同心協力、永久ニ渝ルコトナキヲ期セラレンコトヲ。

昭和十年九月

神戸市長　勝田銀次郎

滿洲國皇帝陛下奉迎記念誌目次

奉迎前記

一　奉迎準備

一　奉迎事務……一

二　奉迎費議決……二

二　奉迎設備

一　衞生事務……四

二　御道筋附近の清掃……六

三　御道筋の鋪裝改修……六

四　武庫離宮及其の附近の諸設備……八

五　電車及バスの運轉中止……九
三　奉迎催事
一　奉迎門及電飾……一三
二　奉迎送團體塔列……一六
三　旗行列と提燈行列……一九
四　煙火打揚……二二

奉迎本記

一　御發着時間割……二四
二　奉迎表議決……二七
三　須磨驛御着……三二
四　鹵簿肅々……四一

五　武庫離宮に御滯在……四四
一　奉迎表及獻上品捧呈……四六
一　扈從員歡迎及接待……五一
一　特別有資格者御機嫌奉伺……五三
六　武庫離宮御發……六〇
七　第四突堤御着……六三
八　御發航御歸還……六五
九　一路御安泰を祈り奉る……六八

奉迎後記

一　御歸還御慶祝の御機嫌奉伺……六九
二　御下賜金拜受……七〇

三　市長、助役御下賜品拜受……七一
四　記念品の調製……七一

附　錄

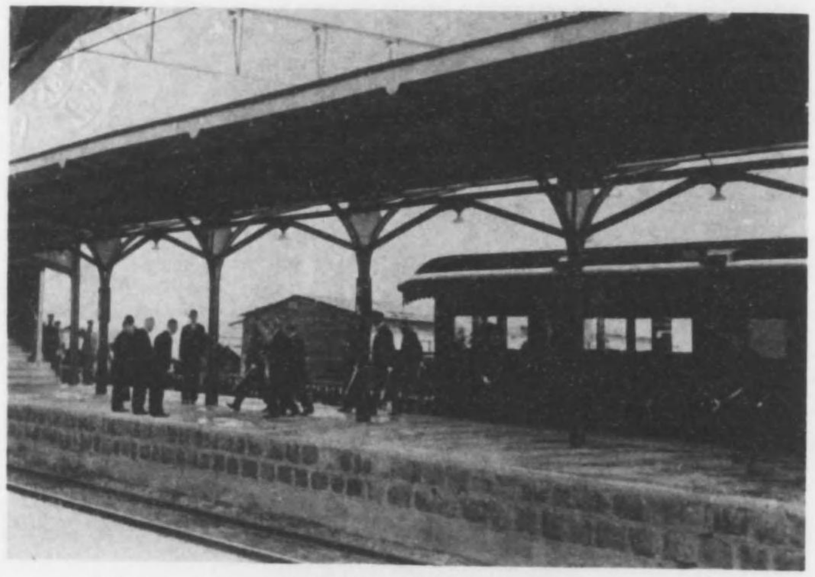
一　滿洲國皇帝陛下御來訪關係事務分掌竝奉迎事務從事員

滿洲國皇帝陛下奉迎記念誌目次　終

卷頭寫眞目次

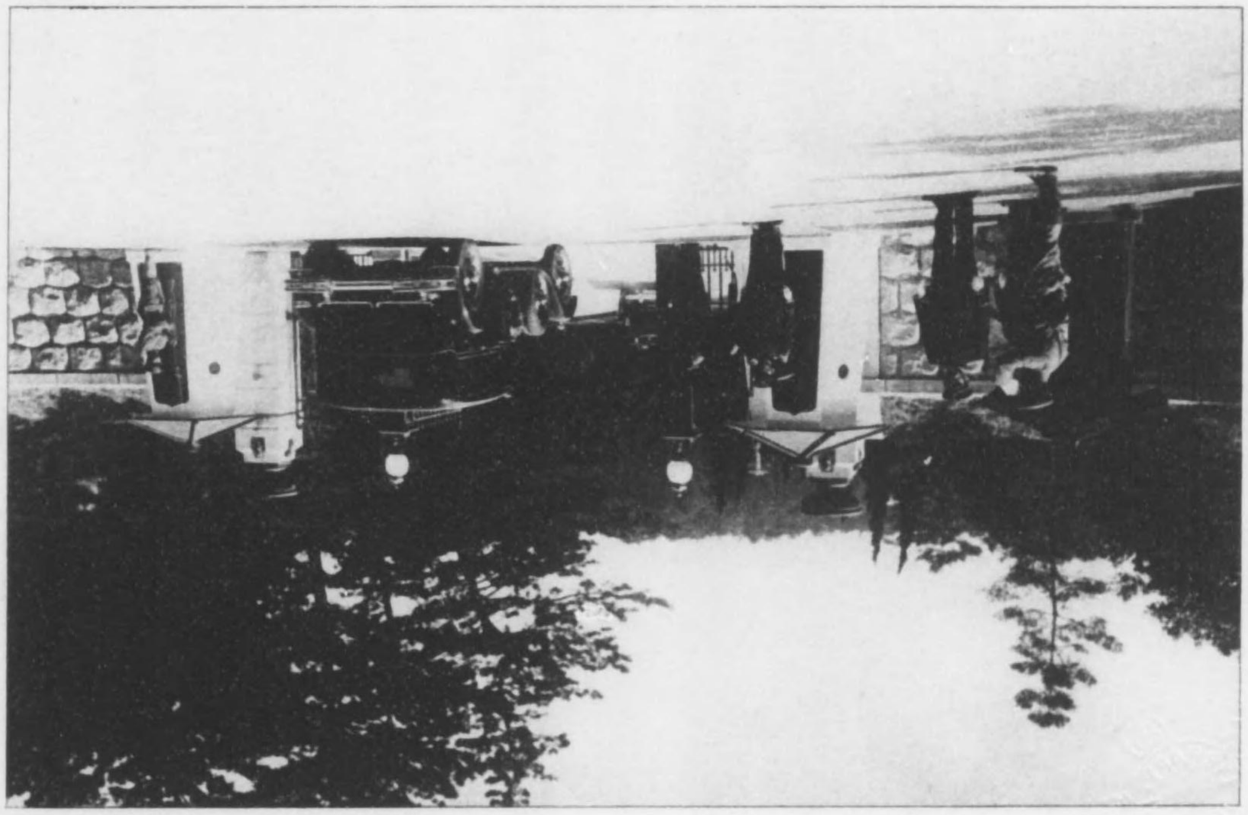
一　滿洲國皇帝陛下須磨驛御着
二　須磨驛頭の皇帝陛下
三　武庫離宮御着の鹵簿
四　奉迎表
五　獻上品
六　武庫離宮正門前の旗行列
七　御道筋に於ける小學生の御奉送
八　奉迎の花火（其の一）
九　奉迎の花火（其の二）
一〇　天神橋の電飾
一一　天神橋下の奉迎綵門
一二　稅關前の奉送綵門

一三　須磨驛前の奉送緑門
一四　第四突堤より御召艦比叡に向はせられる皇帝陛下
一五　御召艦比叡に御乘の皇帝陛下
一六　第四突堤を離れた御召艦比叡
一七　御發航の御召艦比叡



滿洲國皇帝陛下須磨驛御着

須磨驛頭の皇帝陛下



霞山の拳御宮輦車式

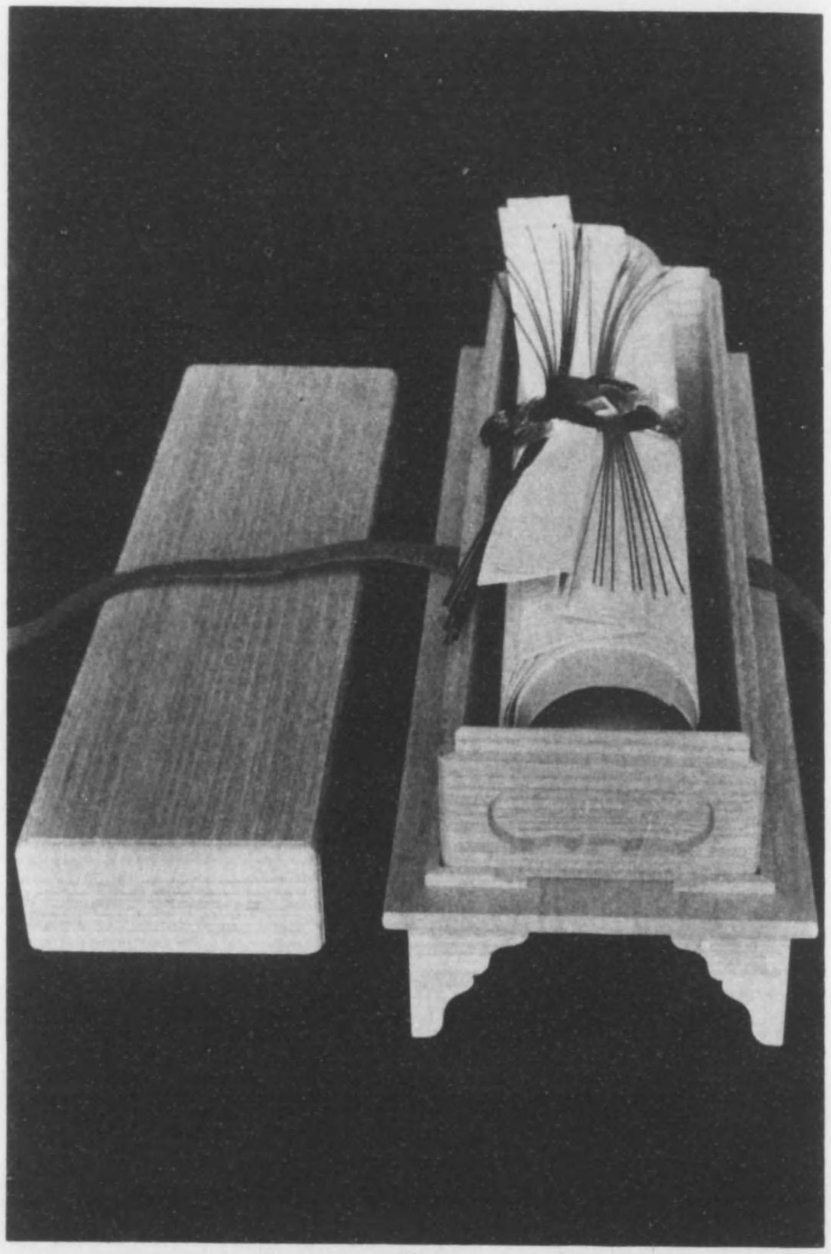
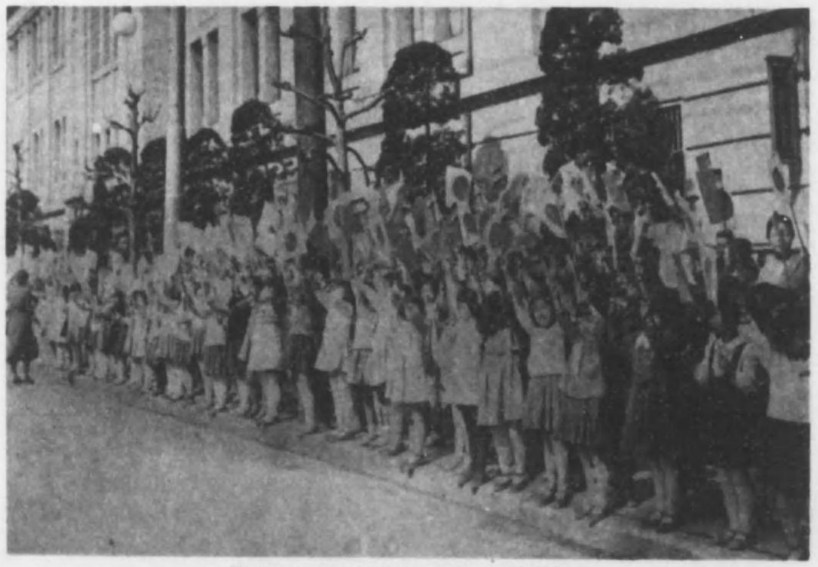


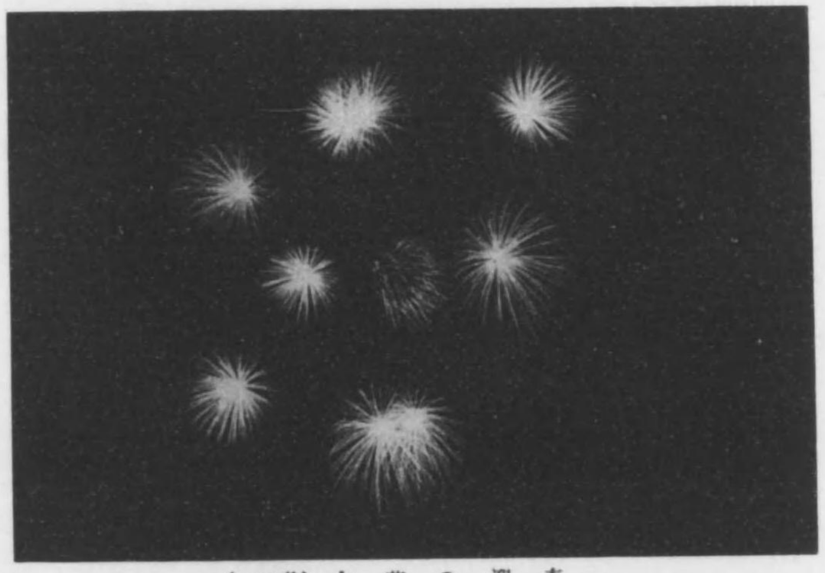
表　　迎　　奉

献上品

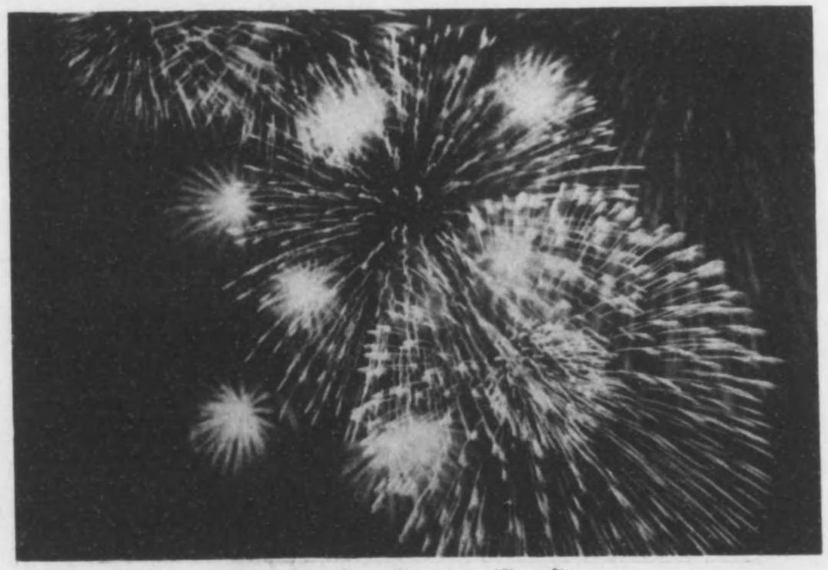
武庫離宮正門前の旗行列



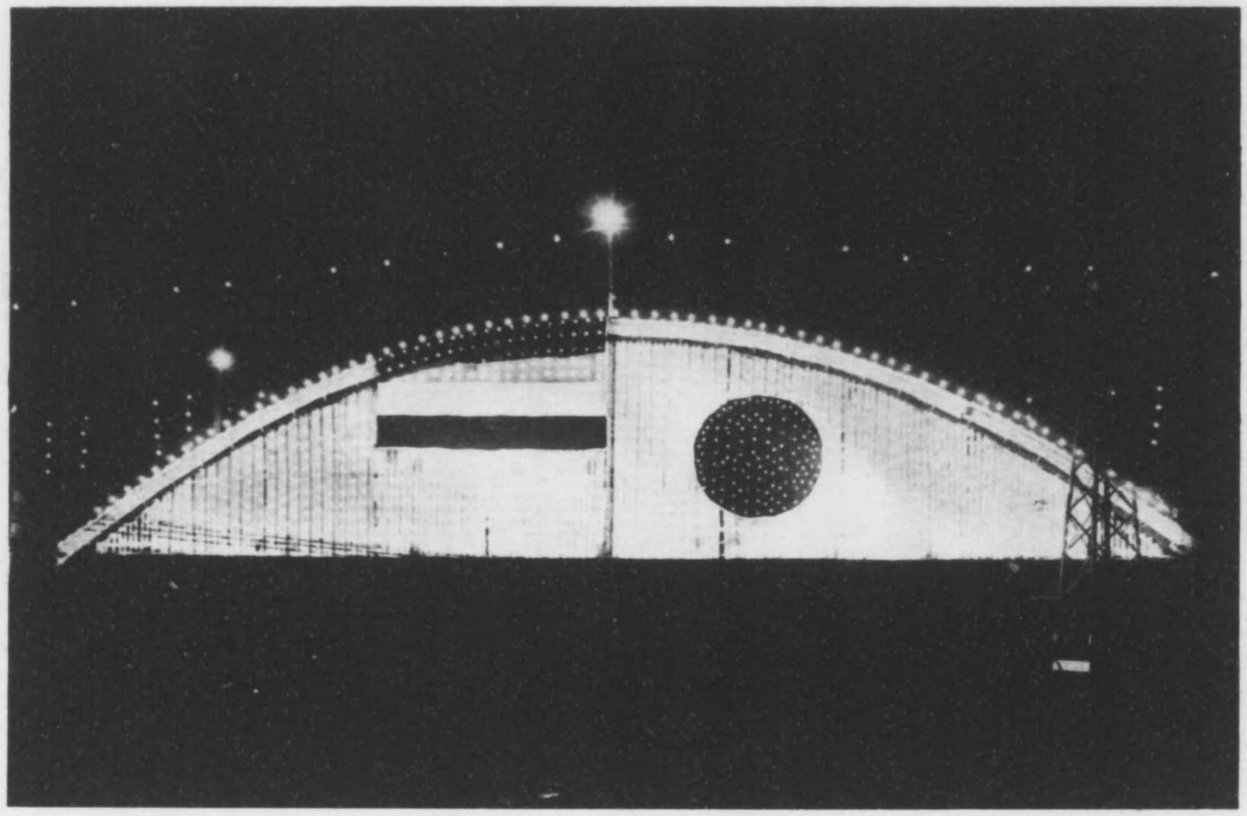
御道筋に於ける小學生の御奉送



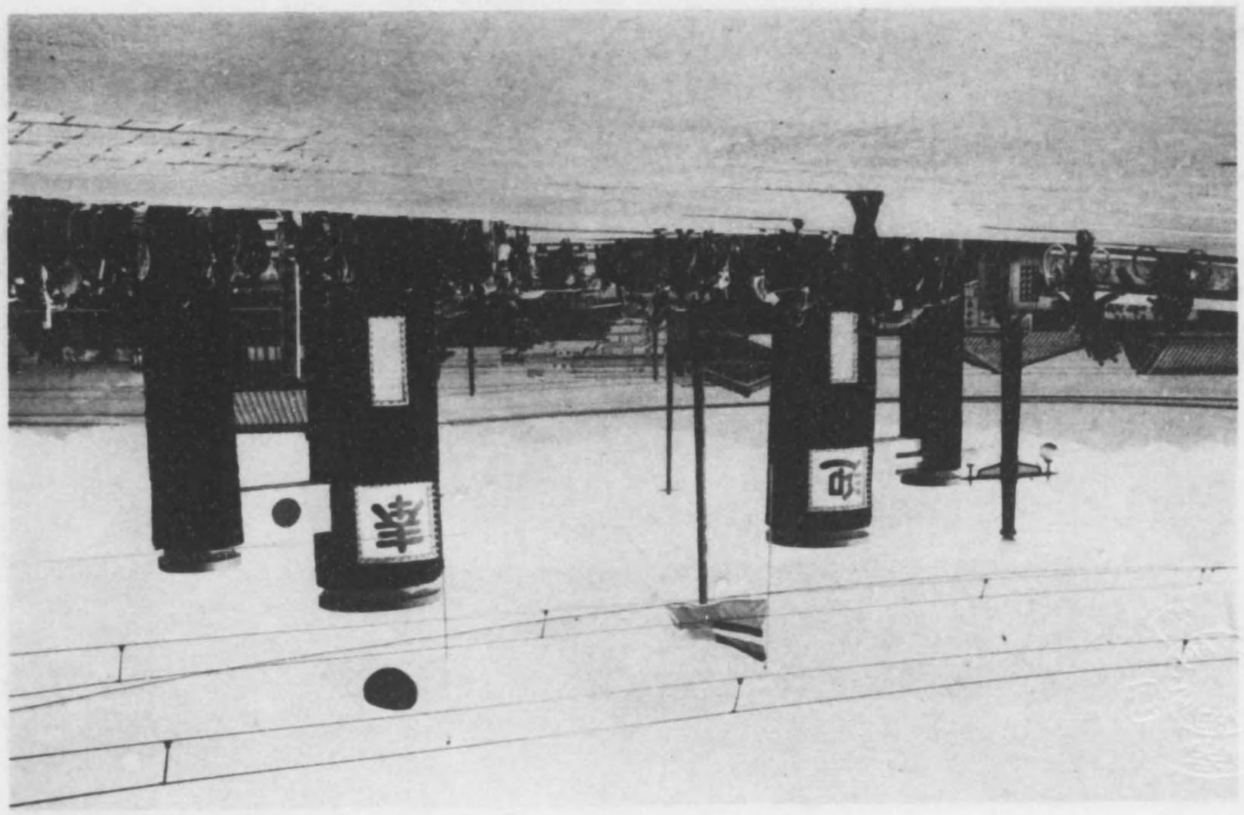
（一の其）火　花　の　迎　奉



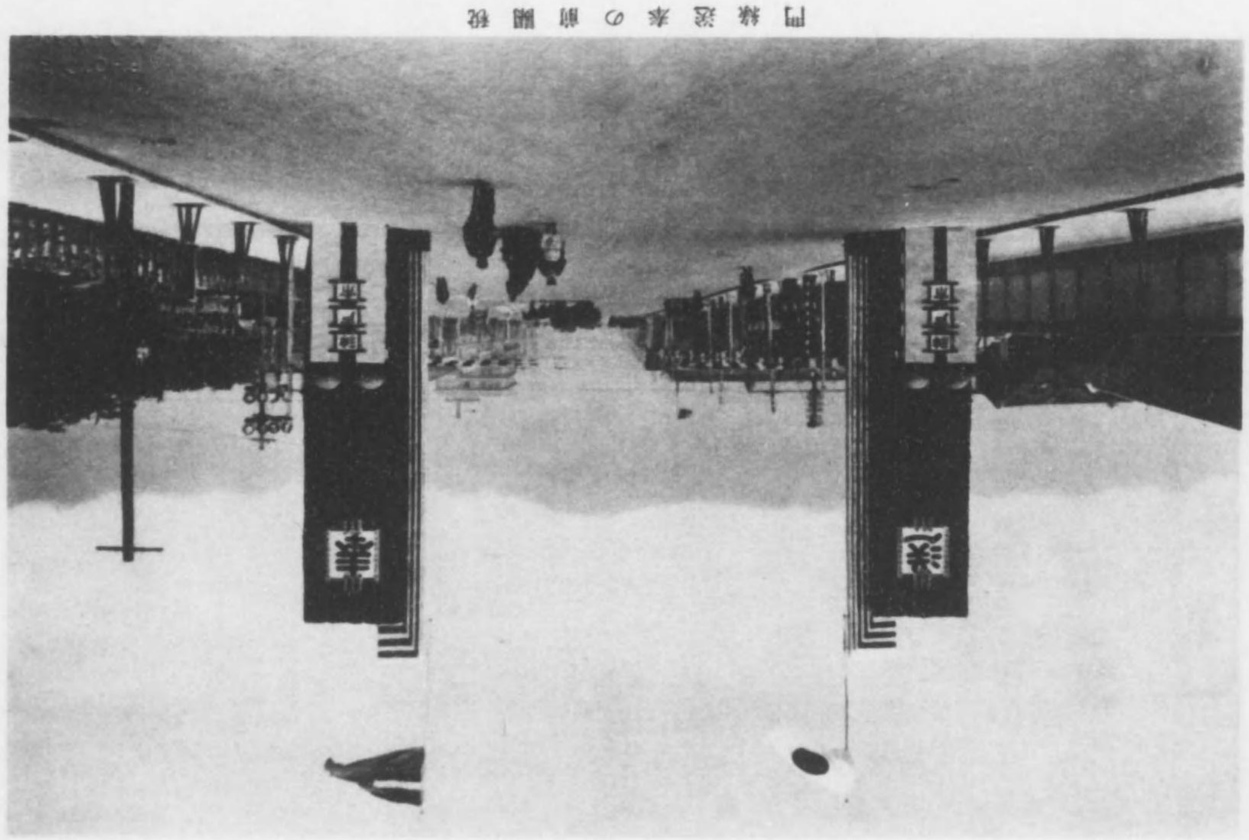
（二の其）火　花　の　迎　奉



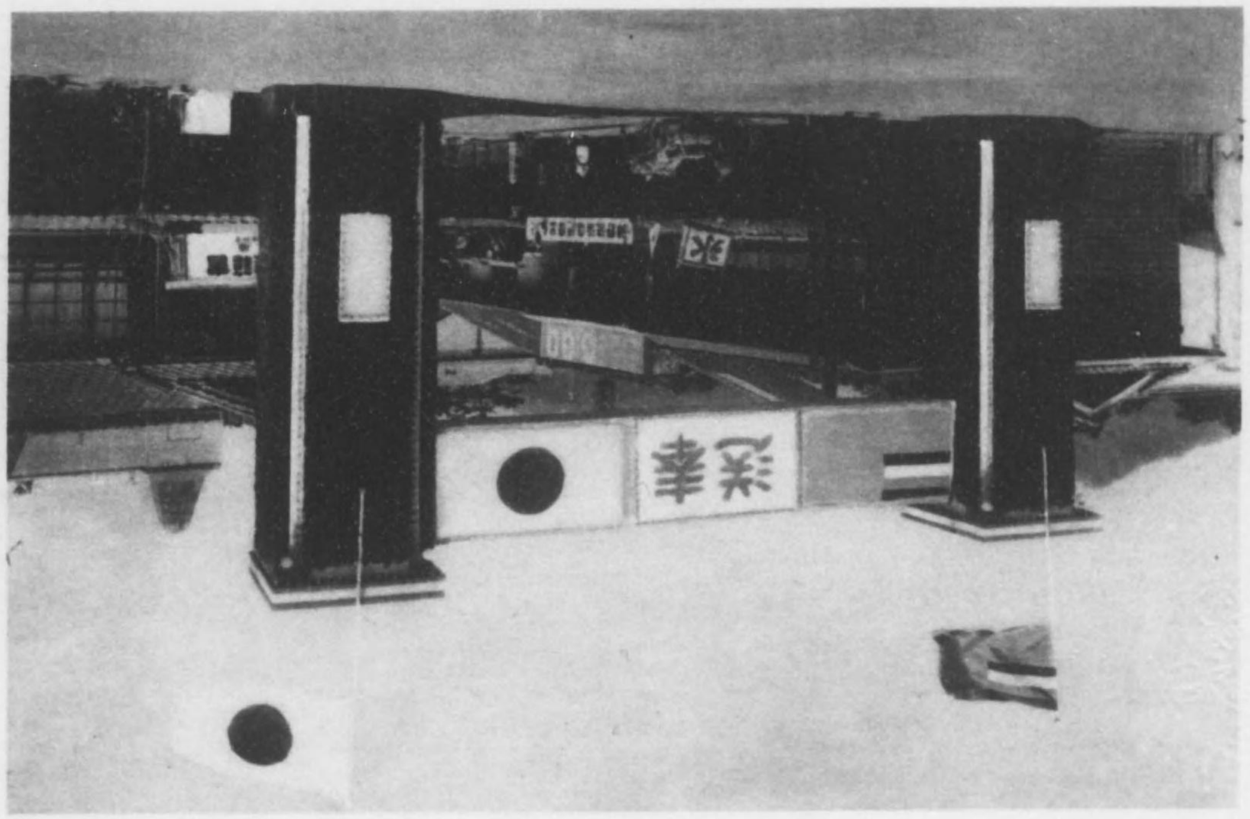
天神橋の電飾



門線迎春の下植神天

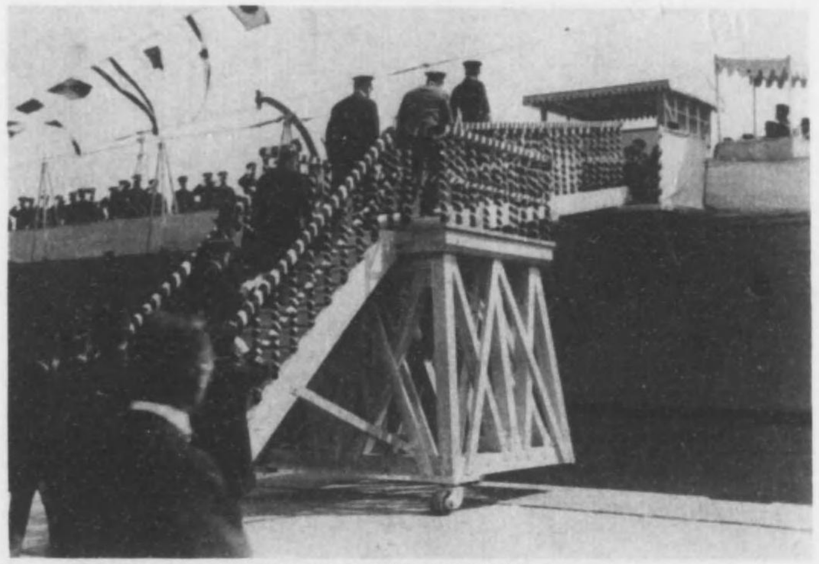


門鉄送泰の前關稅

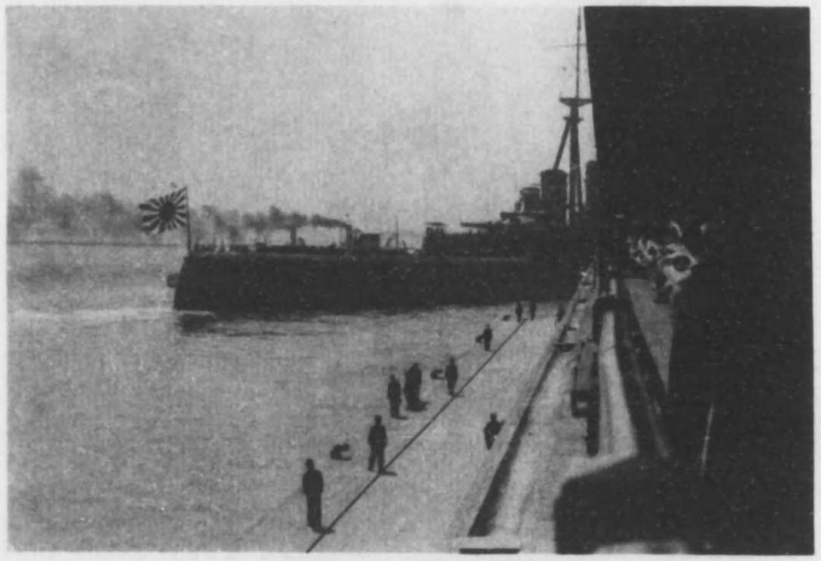


門樣築泰の御驛鎮座

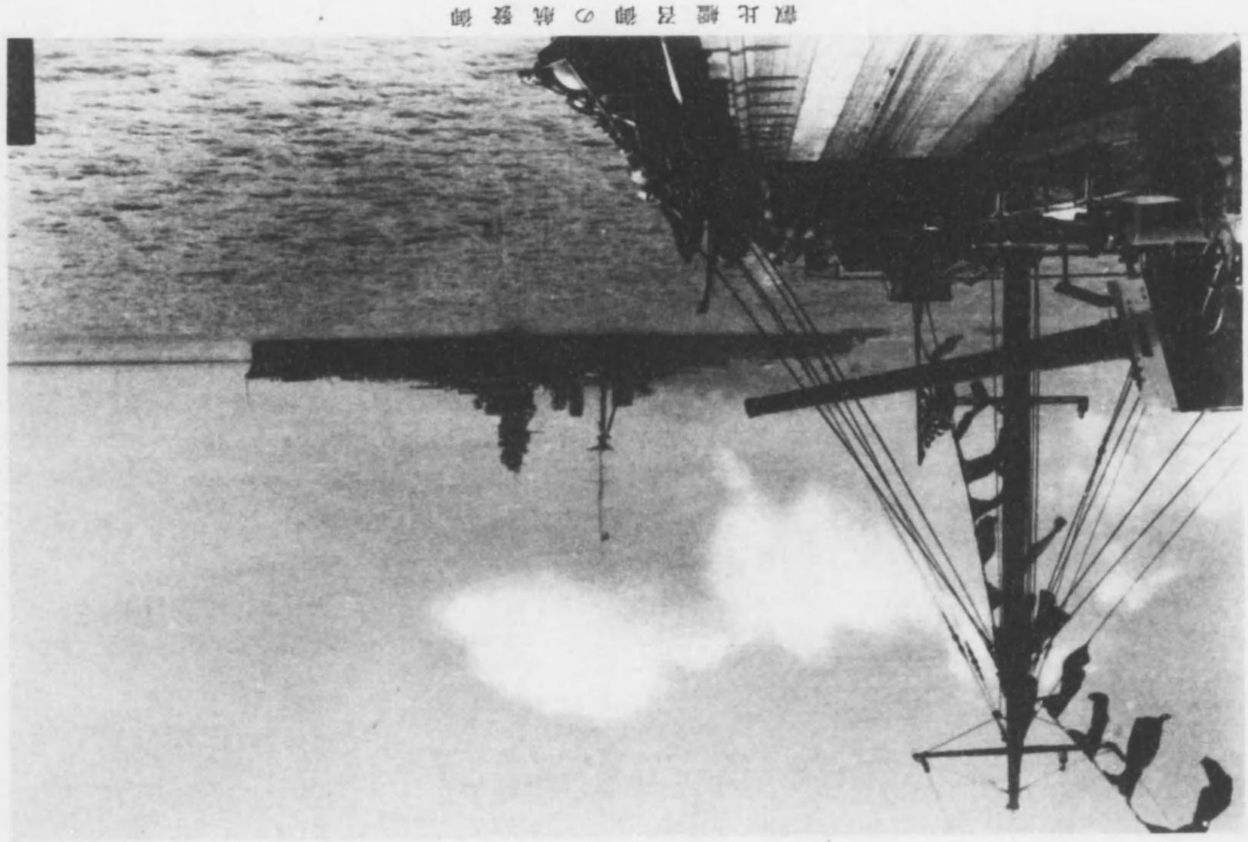
第四突堤より御召艦比叡に向はせられる皇帝陛下



御召艦比叡に御乗の皇帝陛下



第四突堤を離れたる御召艦比叡



叡山艦召御の航發御

滿洲國皇帝陛下奉迎記念誌

神戸市役所謹纂

奉迎前記

一、奉迎準備

一、奉迎事務

滿洲國皇帝陛下御歸還の途次本市に御來訪遊ばされる御趣き、宮内省より通達あり、本市では御來訪の光榮を荷ひ、三月十五日　滿洲國皇帝陛下御來訪關係事務分掌を定め、

市長は市正廳に各局部課長を招集し奉迎事務打合會會議を開催、鋭意奉迎事務の萬全を期した。

二、奉迎費議決

奉迎費貳萬五千圓は四月四日開會の昭和十年度最初の市會に、豫第一三號議案昭和十年度神戸市歳入出追加豫算として上程せられ全員（出席議員五十三名）起立し嚴肅裡に可決せられた。因に市長の提案説明は左の通りであつた。

本日茲に　滿洲國皇帝陛下御來訪奉迎に關する經費豫算を提出致しまして、之が大要を御説明致しますことは

私の最も光榮とする所であります。

惟ふに日滿兩帝國の和親修交は東洋永遠の平和を來す所以なることは萬邦の等しく睹る所でありまして、就中其の經濟交通の衝に當る我が神戸市に　滿洲國皇帝陛下を奉迎致しますことは私共の感激に堪へぬ所でございます。洩れ承る所に依りますれば　皇帝陛下に於かせられては我國各地御訪問の後四月二十一日神戸市へ御來訪、武庫離宮に我國最後の御宿泊を重ねさせられ四月二十三日神戸港より御歸國遊ばされる由でございます。茲に右奉迎の豫算と致しまして奉迎文、獻上品、奉迎アーチ及電飾、花火打揚其の他御接待費等貳萬五千圓を計上致し

たのであります。

右謹んで奉迎費豫算の大要を御説明致します、何卒愼重審議御協賛を賜らんことを望む次第でございます。

二、奉迎設備

一、衞生事務

本市は皇帝陛下の御來訪に先立ち全市民、わけても御滯在地である須磨區一帶の市民各自の健康に留意し、それぞれ防疫施設の完璧を期し傳染病豫防のためには、須磨區天上川及之が合流地點である妙法寺川以西を第一警戒區域とし、本區域住民約三萬人（幼兒を除く）に對し腸チフス及赤痢内服ワクチンを服用せしめ、資力の乏しい者約一萬人に對しては本市より之を無料交付し、其の他の者に對しては衞生組合に於て十分督勵服用せしめた。尙定期種痘の實施豫定期日を繰上げ左の通り施行し萬全を期したのであつた。

須磨區　全區域四月一日より實施し同月十五日迄に接種終了

林田區　新湊川以西四月一日より實施し同月十

八日迄に接種終了

二、御道筋附近の清掃

塵芥箱の塗替手入等は衞生組合と協調の上施行し汚物掃除の徹底を期し、特に旅館、料理店、興業場其の他衆人の出入する營業に從事せる者に對しては特に遺漏なきを期した。

三、御道筋の鋪裝改修

御道筋の道路及軌道鋪裝面の整備に就ては修理をなし四月十七日迄に完了することとし、專ら軌道内の掃除に全力を注ぎ、奉迎日は午前十時午後二時の二回に亙り撒水を爲し、奉送日は午前五時三十分一齊に軌道内掃除及安全地帶周圍の清掃に努め、運轉休止後左記四ケ所に播砂し、御道筋路面の完全を期した。

一、長樂町四丁目鐵道踏切
一、四番町八丁目長田交叉點
一、楠町六丁目交叉點
一、瀧道交叉點

尙萬一の事故に備ふるため、應急修理材料を自動車に積載し、運轉休止まで御來訪當日は須磨終點に、御歸還當日

は須磨車庫及五番町二丁目に待機し、運轉休止後所定場所に引上げた。

四、武庫離宮及其の附近の諸設備

離宮内の電氣工作物に關しては、宮内省内匠寮電氣係員立會の上四月十三日より三日間に亙りて檢査を施行し、離宮專用配電線路の新設、豫備配電線路の延長及送電臨時開閉所の新設工事を行ひ、水道設備に就ても檢査の上、萬遺漏なきを期し、離宮附近家屋内電氣工作物の檢査に就ては三月初旬より四月十日迄の間に於て、須磨區大手町二、三丁目及權現町二、三丁目の筋より妙法寺川に沿ふて海岸に下る之より以西各家に付檢査を施行し不良箇所は改修し、又離宮附近及鹵簿御道筋の電線路も、檢査の上電柱電線等の改修工事をなした。

五、電車及バスの運轉中止

奉迎送兩日に於ける御道筋の市營電車の運轉中止時間及區間は左の通りであるが、市營バスに於ても市營電車に準じ夫々配操車の中止をなした。

四月二十一日

運轉中止時間及區間

時間	線名	區間
自午後一時十七分 至午後二時二十二分	須磨線	衣掛町須磨終點間

單線折返運轉時間及區間

時間	線名	區間
自午後一時〇分 至午後二時二十分	須磨線	鷹取町二丁目衣掛町間

御召列車御通過の際一時運轉停止の時間及區間

時間	線名	區間
自午後一時五十六分 至午後二時二分	國道線	小野柄通五丁目加納町五丁目間
同	布引線	加納町四丁目加納町五丁目間
自午後一時五十八分 至午後二時四分	榮町線	元町六丁目楠公前間
自午後一時五十九分 至午後二時五分	兵庫線	楠公前相生町四丁目間
自午後一時五十九分 至午後二時二分	兵庫線	相生町四丁目相生町四丁目間
自午後二時二分 至午後二時八分	榮町線及兵庫線	柳原—兵庫驛前柳原—兵庫驛裏間
自午後二時三分 至午後二時九分	尻池線	御藏—菅原東尻池二丁目間

四月二十三日

運轉中止時間及區間

時間	線名	區間
自午前八時七分	須磨線及尻池線	須磨終點間 東尻池町二丁目東尻池町二丁目間 松原通六丁目間

至午前九時二十分	和田線	東尻池町二丁目 東尻池町五丁目	間
自午前八時十三分	尻池線及山手線竝	東尻池町二丁目 湊川公園	間
至午前九時二十七分	湊川公園線	湊川開公園 新地	間
自午前八時十七分 至午前九時二十八分	山手線	湊川公園 大倉山	間
自午前八時二十四分 至午前九時二十八分	平野線	有馬道 平野	間
自午前八時二十五分 至午前九時三十二分	山手線	大倉山 加納町三丁目	間
自午前八時三十分 至午前九時三十五分	布引線	加納町三丁目 布引	間
自午前八時二十八分	臨布引港線及	加納町三丁目 稅關前	間
至午前九時三十七分	國道線	小野柄通五丁目 及加納町三丁目 三宮神社前	間

單線折返運轉時間及區間

自午前七時五十四分 至午前九時十五分	尻池線	中ノ島 松原通六丁目	間

三、奉迎催事

一、奉迎門及電飾

皇帝陛下を迎へ奉る本市では、市民の誠を象徴する奉迎門を御道筋の要所である神戸稅關前、須磨驛前、離宮道市電停留所附近の三ケ所に建設をなした。

このアーチは、杉丸太及角材を以て要所ボールト締め及

鋲打ち、又は鐵線を以て組立て外形は杉葉を植込み、表面を刈立てゝ一部鐵板張り及カンバス張りの所は表面に模樣を施し、尙適當に「モール」の類を以て裝飾し、奉迎の文字は　皇帝陛下御歸還の日には「迎」を「送」に書替へ、奉迎門上には日滿大國旗を建てた。

更にこの三ケ所の大アーチには電飾を施し、夜間一層の光彩を添へることとし、須磨驛前奉迎門の輪廓電飾は燈數一〇W四二二燈、六〇W八燈を以て裝飾し、之に對し五KVA變壓器を設置、離宮道前奉迎門の輪廓電飾は燈數一〇W四二四燈で變壓器は天神橋電飾用のものと共用である。神戸稅關前奉迎門の溢光照明及輪廓電飾は燈數一〇W一八四燈、五〇W一六燈に對し、一五KVA變壓器一臺を設置した。

尙御旅館武庫離宮の高臺より眺下の位置にある天神橋跨線橋北側トラスの山側に、日滿國旗を象つて電飾を施し、南側トラスの山側には奉迎電飾額を掲げ、電車線外側柱には幔幕狀懸垂電飾を施し、使用燈數は一〇W五七六燈、一五W四四六燈、二〇W一、一二七燈、三〇W二〇二燈、四〇W三一燈、四〇〇W一四燈、之に對し三〇KVA變壓器一臺、二〇KVA變壓器一臺を設置した。

また錨山、市章山竝國旗掲揚塔の輪廓電飾は、燈數二〇W二九三燈、四〇W五燈を設置し、海港都市神戸の偉觀、

わけても須磨方面一帶の不夜城を現出し、以て御旅情を慰め奉るべく努めた。

二、奉迎送團體堵列

鹵簿奉拜は各種團體のみに限定せられ、御道筋及稅關構内に決定された。尙有資格者は須磨驛構内及稅關第四突堤横で奉迎送申上げることになつた。

四月二十一日須磨區内尋常五年以上の兒童約三千八百名は四列横隊を本隊として市電須磨終點より天神橋西詰迄約四百米の間に整列奉迎申上げることになり、四月二十三日

は市内小學校の尋常四年以上の兒童全部但し灘區内の小學校は五年以上約五萬七千人、この外に中等學校生徒二萬二千人、總數七萬九千人は二列横隊を本隊とし、一粁に付約五千人の割合で午前八時迄に堵列を了へ、又各種團體二萬三千人に於ても左の如く堵列區域の決定をみ奉送申上げることとなつた。

大倉山公園下東角……神戸市役所
第四突堤R上屋の南端より瀧道交叉點迄……灘區内小學校生徒
瀧道交叉點より中山手通三丁目迄……葺合區内小學校生徒
中山手通三丁目より下山手通八丁目迄……神戸區内小學校生徒
下山手通八丁目より荒田町一丁目迄……湊東區内小學校生徒
荒田町一丁目より上澤通二丁目迄……湊區内小學校生徒

上澤通二丁目より東尻池町二丁目迄……兵庫區內小學校生徒
東尻池町二丁目より本庄町五丁目鐵道交叉點迄……林田區內小學校生徒
本庄町五丁目鐵道交叉點より離宮道迄……須磨區內小學校生徒
東遊園地停留所より稅關入口迄の西側步道……灘區內青年團、母の會、處女會
加納町五丁目停留所より東遊園地停留所迄の西側步道……葺合區內前記諸團體
下山手通八丁目停留所より下山手通五丁目停留所迄の濱側步道……神戸區內前記諸團體
湊川公園停留所東より楠町六丁目停留所迄の濱側步道……湊東區內前記諸團體
上澤通二丁目停留所より湊川公園停留所西迄の山側步道……湊區內前記諸團體
東尻池町二丁目停留所より四番町八丁目停留所迄の東側步道……兵庫區內前記諸團體
林田區役所前停留所より東尻池町二丁目停留所迄の濱側步道……林田區內前記諸團體
若宮町四丁目停留所より大橋町九丁目停留所迄の濱側步道…須磨區內前記諸團體

三、旗行列と提燈行列

旗行列

須磨驛より離宮道に至る御道筋に於て堵列奉迎申し上げる小學校、中等學校生徒三千八百名は、鹵簿御通過後三十分を經て午後二時五十分よりラッパ鼓隊を先頭に小學校、中等學校の順序で行進を開始し、奉迎歌を唱へつゝ天神橋を通過、離宮道左側を北上し離宮正門前にて「滿洲國皇帝

陛下萬歳」を奉唱し、右折して月見山停留所に至り團體每に解散した。

奉迎歌詞

一、大陸の風もしづまり
　時は春空もうらゝか
　我等今あゝ嬉しくも
　迎へまつる
　滿洲國皇帝陛下

二、蘭かをる花の御旗に
　日章旗光交へて
　まのあたりあゝ尊くも
　迎へまつる
　滿洲國皇帝陛下

三、新興の國の榮は
　東洋の平和のもとゐ
　今日こゝにあゝめでたくも
　迎へまつる
　滿洲國皇帝陛下

提燈行列

滿洲國皇帝陛下御滯在中の御旅情を慰め奉るため須磨、林田、兵庫各區内青年團員竝青年學校生徒約三千人は、二十一日午後七時より提燈行列を行ふことゝし青年學校生徒

は妙法寺川西側市電山側に、青年團は同濱側に集合して同七時三十分此處より天神橋に向つて行進を開始し、橋を往復し橋上にて「萬歳」を奉唱集合地に還り、午後八時三十分解散した。

四、煙火打揚

滿洲國皇帝陛下御召列車縣境御通過時刻、須磨驛御着時刻竝武庫離宮御着時刻の際、二十三日武庫離宮御發竝御召艦御出港の際、煙火を打揚げて奉迎送の誠意を披瀝することとしたが、尙武庫離宮に御滯在中の　皇帝陛下の御旅情を御慰め申上げるため二十一、二十二日の兩夜午後七時より同九時まで武庫離宮に近き妙法寺川尻に於て左の如く夜間煙火の打揚を爲した。

四月二十一日

煙火名	口徑	數量
引先の紅輝電光友禪外各種模樣入	一尺	一〇發
電光砲外各種模樣入	八寸	一二發
昇り金龍引先の青外各種	五寸	一三〇發

四月二十二日

煙火名	口徑	數量
牡丹園外各種	一尺	一五發
電光砲外各種	八寸	一二發
菊先の綠外各種	五寸	一八〇發

奉迎本記

一、御發着時間割

滿洲國皇帝陛下此度の御來訪は滿洲國建國に際し、帝國の深厚なる援助と、帝制實施に當り、我が皇室より御慶祝のため　秩父宮殿下を御差遣遊ばされた御答禮であらせられるため、御滯在も極めて切詰めさせられ御寸暇もなき御日程であらせらる。

蘭花香る四月二日大連にて御召艦比叡に御乘艦、同六日横濱港御入港御出迎への　秩父宮殿下と御共に特別列車に

召されて御入京、東京驛頭に於て　天皇陛下と御會見あらせられ、儀裝馬車にて御旅館赤坂離宮に入らせらる、午後宮城に御參入、同七日より十四日迄帝都に御滯在、十五日午前九時三十分東京驛御發、同午後六時京都驛御着、十六日より十八日迄京洛の春麗を御探策、十九日京都驛午前十時御發、奈良驛同十一時御着、奈良ホテルに入らせられ古都奈良の鹿寄せ行事に御旅情を御慰め申上げ、二十一日午前十時奈良驛御發、大阪へ御立寄遊ばされ、大阪驛午後一時三十分御發、同二時十五分須磨驛御着、武庫離宮に御滯在、二十二日武庫離宮に御靜養、二十三日午前十時神戸港にて御召艦比叡に御乘艦御發航、內海粟島沖に御假泊、宮

島御巡覽の上、御歸還遊ばされた。

本市御來訪御發着時間は左の通りであつた。

四月二十一日午後二時十五分須磨驛御着、同十七分須磨驛より自動車鹵簿にて御發、同二十一分武庫離宮に御着。

四月二十二日武庫離宮に御靜養。

四月二十三日午前九時五分鹵簿にて武庫離宮御發、同三十二分神戸港第四突堤に御着、同十時御召艦比叡にて御歸還の途につかせられた。

二、奉迎表議決

滿洲國皇帝陛下には四月二十一日本市に御來訪あらせられ、御旅館武庫離宮に御滯在遊ばされることを拜したる市民は抃舞踴躍の喜びに堪へず、同日午前十時神戸市會を招集、議長（前田二一六）開會を宣すると共に

一、號外滿洲國皇帝陛下御來訪奉迎文捧呈の件

を上程、勝田市長登壇、

一言提案の理由を御說明申上げます。滿洲國の建設されまするや我が帝國は列國に率先してこれを承認し、國

際聯盟をも脱退し、所謂斷金如蘭、攻守同盟を締結したのでありますが、有史以來三千年に垂んとする我が帝國が、日滿兩國に於けるが如き關係に於て他國と締結した例はないのであります。此の善隣盟邦の元首たる　皇帝陛下が我が　天皇陛下に對し奉りて滿洲國建設に對する帝國の支援竝に昨年御名代宮御差遣に對する御答禮のために御來訪遊ばされ、蘭菊の契永久に渝るまじと御交歡遊ばされたるが如き盛儀は我が歴史はもとより東亞の歴史上洵に振古未曾有の盛事として感激に禁へぬ次第であります。

皇帝陛下には御滯在中明治神宮、多摩御陵、桃山御陵に御參拜あらせられて我が皇室に對する尊崇の御誠意を示し給ひ、靖國神社に御參拜あらせられては滿洲國建國に仆れましたる幾多の英靈を慰めさせられたる外、凡そ滿洲國の建設に對する功勞者に對してはそれ〴〵感謝慰問等御手厚き方法を講じさせられましたる御盛德に對しましては擧國御讃仰申上げてゐるところであります。

かくの如く御來訪以來殆ど御靜養の御遑なきまでに御繁多に亙らせられた御日程を終らせられ、愈國都新京へ御歸還のため神戸港から御發航相成るべく、一先づ本日午後二時過ぎ武庫離宮に入らせらるゝを奉迎いたしますることは、本市民の誠に光榮とする所であります。

飜つて滿洲國と本市との關係を見まするのに滿洲國の隆昌は直に本市の隆盛をもたらすまでに濃厚なる關係にありまするが、特にその貿易關係に於て此の事實が顯著に認められるのであります。

天資英邁に亙らせらるゝ　皇帝陛下此のたびの御來訪に當りましては國民として誠歡誠喜御奉迎申上げたのでありまするが、我が神戸市の滿洲國に於ける關係に照しまして一ときは熱誠をこめ親愛に充ちて御奉迎申上げなければならぬ次第と信じてゐるものであります。

つきましては市長の名において奉迎表を捧呈して奉迎の誠意を捧げたいと存じまするので、只今一應朗讀いたしますから、何卒滿場一致の御賛成をもちまして御可決あらんことを切望してやまぬ次第であります。

と提案の理由を説明し、原案を朗讀、總員起立裡に滿場一致を以て、嚴かに奉迎表を可決した。

當日出席の議員氏名左の通りである。

中島正一　細見達藏　山口敬一　山下文太
松澤兼人　伊丹武司　片岡常松　伊藤貞五郎
中野文門　重成千代吉　吉川丑太郎　金光邦三
田林周五郎　平松市太郎　手納幸一郎　八木佐太治
藤村和夫　梶　辨太郎　川崎濱太郎　西川莊三
佃　良一　黑田覺平　花房　健　谷口壽治
上山林吉　白川一夫　大坪槇太郎　岩崎勝三郎

森　政雄　丸岡茂吉　山村安平　前田二一六
上田　實　大久保直次郎　大崎一郎　大越兵藏
後藤仲一郎　安國幸左衛門　田中太兵衛　吉田桑一
岡本大六　清島甚吉　岸　謙太郎　小畑萬吉郎
坪田賢治

三、須磨驛御着

滿洲國皇帝陛下には御西下以來、春深き京洛の雅趣を賞でさせられ、或ひは奈良の風光に親しませられ、ひたすら古典日本の御探索に御寛ぎの數日を過させ給ふたが、更に輝ける御旅程の御一歩を進めさせられ、二十一日朝寧樂に於ける御旅館奈良ホテルを御機嫌御麗しく御出門あらせられ午前十時奈良驛御發、關西線を經て同十時五十分大阪湊町驛に御着、産業の中樞大阪市に御立寄遊ばされ、中央公會堂に於ける大奉迎會に御臨場後、午後一時三十三分大阪驛正面より御召列車に御乘車一路須磨驛に向はせられた。

待ちに待つたこの日、新興の若き元首を奉迎する須磨驛は點塵だもみとめぬまでに清らかに水洗ひがせられ、風光明媚の須磨の浦曲からほのかに漂ふ磯の香にさへも奉迎の氣分が芳ばしくも感受される　皇帝陛下御奉迎の各種諸團體は兩手に日滿國旗をなびかせつゝ御道筋を埋めつくし、

たゞひたぶるに心を躍らせて時の至るをお待ち申上げてゐた。

かくて縣境塚本驛御通過時刻の合圖の煙火が一發須磨妙法寺川尻より打揚られ、奉迎申上げる市民は一入感激に溢れた。

午後二時十五分御召列車は滑るが如く晴裝の須磨驛構内に入り、汀に打ち寄す波の音近き南側ホームに御着、かくて善隣の若き元首を躍進の港都神戸に奉迎申上げたのである。

滿洲國皇帝陛下隨員及び接伴員は左の通りである。

隨員

宮内府大臣　沈瑞麟閣下
外交部大臣　謝介石閣下
尚書府大臣　袁金鎧閣下
國務院總務廳長　遠藤柳作閣下
侍從武官長　張海鵬閣下
宮内府次長　入江貫一閣下
宮内府警衛處長　佟濟煦閣下
宮内府總務處長　許寶蘅閣下
陸軍中將　郭恩霖閣下
參議府祕書局長　荒井靜雄閣下
外交部政務司長　神吉正一閣下

海軍少將　尹祚乾閣下
宮內府侍衛官長　工藤忠閣下
宮內府掌禮處長　張允愷閣下
宮內府侍醫　徐思允閣下
尙書府祕書官長　高木三郎閣下
宮內府祕書官　傅嶽棻閣下
宮內府祕書官　加藤內藏助閣下
宮內府侍衛官　熙輪奐閣下
宮內府囑託　林出賢次郎閣下
宮內府囑託　小泉三郎閣下
國務院總務廳囑託　中島比多吉閣下

尙書府祕書官　羅福葆貴下
宮內府禮官　蔡法平貴下
侍從武官　連組貴下
宮內府祕書官　劉傑三貴下
宮內府侍衛官　存耆貴下
宮內府飜譯官　清宮宗親貴下
國務院總務廳理事官　山田弘之貴下
宮內府禮官　張格貴下
宮內府事務官　岳燕璞貴下
宮內府飜譯官　莊壽爾貴下
國務院總務廳理事官　佐藤正一貴下

陸軍騎兵少校　鄧洸薫貴下
侍從武官　張堃貴下
宮內府奏事官　吳天培貴下
宮內府事務官　李田種彥貴下
國務院總務廳事務官　葉參貴下
外交部事務官　馬夢熊貴下
參議府祕書局事務官　北爪保雄貴下
外交部祕書官　謝喆牲貴下
海軍中尉　王紹文貴下
宮內府禮官　岸名幸基貴下
宮內府從士　諏訪績貴下

宮內府寫眞士　李國雄貴下
宮內府從士　李平興貴下
宮內府從士　霍慶雲貴下
侍從武官處附　高見薫雄貴下

接伴員

樞密顧問官　男爵　林權助
宮內次官　大谷正男
內藏頭　男爵　白根松介
陸軍中將　橋本虎之助
外務省東亞局長　桑島主計
式部官　山縣武夫

海軍少將	高須四郎	
式部官伯爵	坊城俊良	
外務書記官	柳井恒夫	
陸軍歩兵中佐	大城戸三治	
海軍中佐	中村勝平	
陸軍歩兵中佐	久野村桃代	
式部官男爵	萬里小路元秀	
式部官男爵	吉川重國	

四、鹵簿肅々

皇帝陛下には後部御召列車より降り立たせ給ふや、奉迎申上げた湯澤兵庫縣知事、勝田神戸市長、元尾神戸税關長に謁を賜ひ、次いで日淺大阪鐵道局長の御先導にて陸橋を渡らせられ、驛頭に奉迎の有資格者に御會釋を賜ひつゝ自動車に御乘車、林接伴員の御陪乘にて鹵簿肅々と一路御道筋、市電須磨終點から天神橋を渡り離宮道を北上、同二十一分御旅館武庫離宮に入らせられた。

自動車鹵簿

須磨驛武庫離宮間

鹵簿

御召車

- 皇帝陛下 御陪乘接伴員 林接伴員
- 警察官

第一號車

- 張侍從武官長 工藤侍衛官長 橋本接伴員

第二號車

- 洗宮內府大臣 入江宮內府次長 白根接伴員

第三號車

- 許總務處長 郭陸軍中將 羅秘書官 桑島接伴員
- 警察官

第四號車

- 加藤秘書官 林出嘱託 吳參事官 山縣接伴員

第五號車

- 謝外交部大臣 佟警衛處長 大谷接伴員

第六號車

- 袁尚書府大臣 神吉政務司長 坊城接伴員

第七號車

- 遠藤總務廳長 荒井秘書局長 柳井接伴員

第八號車

- 張掌禮處長 尹海軍少將

列外

第九號車

- 高木秘書官長 徐侍醫 高須接伴員

第十號車

- 照侍衛官 小泉嘱託

第十一號車

- 中島嘱託 連侍從武官 大城戶接伴員

第十二號車

- 傅秘書官 蔡禮官

第十三號車

- 劉秘書官 存侍衛官 中村接伴員

第十四號車

- 清宮翻譯官 山田理事官

第十五號車

- 張禮官 岳事務官 久野村接伴員

第十六號車

- 莊翻譯官 佐藤理事官 謝秘書官

第十七號車

- 鄧騎兵少校 李田事務官 葉事務官

第十八號車

- 王海軍中尉 北爪事務官 馬事務官

第十九號車

- 張侍從武官 岸名禮官 高見武官處附

第二十號車

- 諏訪從士 李寫眞從士 霍從士 李從士

第二十一號車

- 判任屈從員

- 知事 警察部長
- 憲兵隊長
- 警保局長 警務課長

豫備

豫備

五、武庫離宮に御滯在

武庫離宮に御安着あらせられた　滿洲國皇帝陛下には直に御座所に打ち寛がせられた。

窓外の景色、眼下一眸に展けた名勝須磨の風光を殊のほか御氣に召され、青松靜波に一望の淡路島、紀淡海峽、深みゆく春の夕陽を浴びて金色に輝く白帆の群を御觀賞あそ

ばされたと洩れうけ承はる。

武庫離宮御滯在は御休養を旨とされ　皇帝陛下には極めて御寛ぎの御樣子で靜かに御讀書あそばされたと承る。

夜に入ると青年團、學校生徒三千の奉迎提燈行列を御覽遊ばされ、夜空に五彩の華を描く奉祝の花火、電飾きらびやかな本市の夜景を御興深げに御覽遊ばされた。殊に須磨の浦の海上遠く明滅する漁火は　皇帝陛下の御豐な御詩興に添ひ奉り御旅情をお慰め申上げた。

かくて武庫離宮の御一夜は靜かに更けて行つた。

靜寂な武庫離宮に港都神戸の御一夜を明けさせられた　皇帝陛下には二十二日、麗朗な春陽を浴びさせられて新綠

の茂り、陽炎燃ゆる芝生の御苑内を御逍遙あらせられ、また御居間にて御讀書など專ら御靜養遊ばされた。

一、奉迎表及獻上品捧呈

勝田市長は二十二日午前十一時武庫離宮に參入　皇帝陛下の御機嫌を奉伺すると共に奉迎表竝に獻上品を捧呈、御嘉納の光榮に浴した。

神戸市長勝田銀次郎等恭奉迎
滿洲國皇帝陛下之鹵簿
誠歡誠慶稽首頓首

上言恭惟
皇帝陛下
負元聖之資濬哲文昭
允温允恭以仁爲本以義爲型
建國宏恢克整頓乾坤文物隆興
王道之盛如堯天舜日
而今也鵬程九萬海路無恙粤辱
光臨抃舞之情欽仰之衷思表之無辭伏惟
這般
日
滿

兩皇之御會見不啻定蘭菊千秋之交契厚兩
國親善之誼正是使東洋平和之基礎
愈密愈固
厥旨也洵可謂深且遠矣而我神戸市之
於
滿洲國貿易關係夙有不可離者殊
陛下踐祚後
德化普敷治安定保至利用厚生之道伸其
績益顯著足以萬世永相賴是偏
陛下之賚賜而我市民之所以特致深忱也約
言之則日與

滿二而一一而二利害相倚亦一也
銀次郎等私思方今世道維危人心維
微列强動則陽唱道義陰抱奸惡未遽
可信憑當此時
貴邦有民三千萬我邦有民九千萬惟一
心協力以當事則東亞之保全可期而
待矣何幸
天茲垂恩惠駐
蹕於武庫離宮賜謁叨浴
雨露不勝激切忻懽之至時維南薰解慍須
磨灣頭海波靜鬱鏤瑞霞罩四邊山川

頓增光我地之榮幸何加之殊稻葉山
上之松鬱鬱葱葱如惜
發駕日近含古歌眷眷之別情　銀次郎等切
奉祈
御還京前路之平安爰經市會僉議代市民
謹奉表以
聞
昭和十年四月二十一日
神戸市長勳四等　勝田銀次郎上進

獻上品は、蘭花御紋章入七寶製大花餅並に花餅臺であつて、蘭花御紋章は金線縁取白色七寶で、花餅は紅色透明生地に蘭菊模様を總銀線七寶にて描き、其の下地には海上より觀望せる大神戸の全貌を片切彫で彫刻し紅色釉藥を透して蘭菊模様の間隙より散見、高さ六十六糎である。

花餅臺は浪模様蠟色漆塗にして、本市市章は金高蒔繪と螺鈿とを交互に表し、高さ十一糎、幅五十六糎、奥行四十糎である。

一、扈從員歡迎及接待

皇帝陛下を奉迎した二十一日、本市の感激は、春空に歡

喜の萬華模樣を織りなす花火の欣舞と慶祝に御旅情を慰め奉つた。

縣、市、商工會議所の主催で扈從員歡迎會は、この日午後六時よりオリエンタル・ホテルと菊水樓の二ケ所で開催深更まで歡を盡した。

武庫離宮と甲子園ホテルに一夜を過した扈從員の一行（甲子園ホテル滯在）はそれ〴〵六甲山、舞子などの明媚な風光に徂く春を惜み、舞子萬龜樓で催された縣の招待宴に臨み、日滿交歡の杯を擧げた。

また他の扈從員は思ひ〳〵に日滿國旗の飜る市街の散歩など、極めてのどかに旅情を慰めた。

一、特別有資格者御機嫌奉伺

特別有資格者の御機嫌奉伺は、二十二日午後二時から開始された。特別有資格者は離宮道起點天神橋東詰に設けられた縣案内係に離宮參入證を呈示し、離宮道往復の專用バスで離宮前に下車、正門から森嚴の氣たちこめた離宮内御車寄に參入、設置されたる奉伺所で奉伺帳に署名、御機嫌を奉伺し退出した。

仍本市關係の特別有資格者氏名は左の通りである。

神戸市長　勝田銀次郎

神戸市助役　八木林作
神戸市助役　渡邊靜沖
神戸市土木部長　荒木文四郎
神戸市電氣局長　杉野繁
神戸市會議長　前田二一六
神戸市會副議長　西川莊三
神戸市會議員　中島正一
神戸市會議員　細見達藏
神戸市會議員　山口敬一
神戸市會議員　山下文太
神戸市會議員　永江一夫

神戸市會議員　松澤兼人
神戸市會議員　伊丹武司
神戸市會議員　片岡常松
神戸市會議員　村上蕃
神戸市會議員　伊藤貞五郎
神戸市會議員　中野文門
神戸市會議員　法橋廣三郎
神戸市會議員　重成千代吉
神戸市會議員　岡田定信
神戸市會議員　吉川丑太郎
神戸市會議員　金光邦三

神戸市會議員　田林周五郎
神戸市會議員　平松市太郎
神戸市會議員　手納幸一郎
神戸市會議員　八木佐太治
神戸市會議員　藤村和夫
神戸市會議員　梶辨太郎
神戸市會議員　川崎濱太郎
神戸市會議員　佃良一
神戸市會議員　黑田覺平
神戸市會議員　花房健
神戸市會議員　谷口壽治

神戸市會議員　上山林吉
神戸市會議員　谷口庄一
神戸市會議員　白川一夫
神戸市會議員　大坪槇太郎
神戸市會議員　飛田信
神戸市會議員　竹田延逸
神戸市會議員　岩崎勝三郎
神戸市會議員　森政雄
神戸市會議員　丸岡茂吉
神戸市會議員　山村安平
神戸市會議員　谷本貞次

神戸市會議員　大西卯之介
神戸市會議員　松岡勝榮
神戸市會議員　高砂藤吉
神戸市會議員　上田實
神戸市會議員　大久保直次郎
神戸市會議員　大崎一郎
神戸市會議員　大越兵藏
神戸市會議員　後藤仲一郎
神戸市會議員　安國幸左衞門
神戸市會議員　田中太兵衞
神戸市會議員　吉田粂一

神戸市會議員　岡本大六
神戸市會議員　池田涼一郎
神戸市會議員　岡田耕一
神戸市會議員　加藤惣七
神戸市會議員　清島甚吉
神戸市會議員　岸謙太郎
神戸市會議員　小畑萬吉郎
神戸市會議員　坪田賢治
神戸市會議員　福森庄太郎

六、武庫離宮御發

徂く春の陽光照り輝き、空の碧、海の紺一色につらなり波靜かなる御海路日和、今日二十三日午前九時五分　滿洲國皇帝陛下には海軍通常御禮裝にて、橋本接伴員御陪乘の御料車に召され、自動車鹵簿にて沈宮內府大臣以下扈從員を從へさせられ武庫離宮を御發、殊のほか御氣に召された須磨の浦の眺望に御名殘の御目を止めさせられつゝ、鹵簿は離宮道から左折、東に鬱はせられ東尻池町二丁目から市電上澤線に沿ひ、湊川公園より市電山手線を經て加納町三丁目より右折、瀧道を經て、臨港道路より神戸港第四突堤に鬱はせられた。

自動車鹵簿

武庫離宮第四突堤間

鹵簿

御召車
- 皇帝陛下
- 御陪乘接伴員　橋本接伴員

第一號車
- 張侍從武官長
- 工藤侍衛官長
- 林接伴員

第二號車
- 沈宮內府大臣
- 遠藤總務廳長
- 大谷接伴員

第三號車
- 許總務處長
- 神吉政務司長
- 羅總書官
- 山縣接伴員

第四號車
- 高木總書官長
- 林出囑託
- 吳奏事官
- 柳井接伴員

警察官

警察官

列外

（御旅館ロビー）

第五號車
侍醫 佐藤
衛生處長 徐
侍醫 吉川
接伴員

第六號車
侍衛官 照
侍從武官 連

第七號車
侍衛官 存
侍從武官 丘
事務官

第八號車
譯官 莊
侍從武官 張
侍從武官 諏訪
侍從士

第九號車
侍從士 李寫眞
侍從士 雷
侍從士 李

（ホテルロビー）

第十號車
外交部大臣 謝
陸軍中將 郭
接伴員 白根

第十一號車
國務院書記長 袁
秘書局長 荒井
接伴員 桑島

第十二號車
宮內府次長 入江
侍從武官長 張
高等禮官 高須
接伴員

第十三號車
海軍少將 尹
秘書官 傅
接伴員 大城戸

第十四號車
囑託 小泉
秘書官 加藤
接伴員 中村

第十五號車
囑託 中島
禮官 蔡
接伴員 久野村

第十六號車
秘書官 劉
宮內譯官 清
小路接伴員 萬里

第十七號車
理事官 山田
理事官 佐藤
禮官 張

第十八號車
秘書官 謝
騎兵少校 部
事務官 李田

第十九號車
事務官 葉
海軍中尉 王
事務官 北爪

第二十號車
事務官 馬
處附 高見
禮官 岸名

知事
警察部長

憲兵隊長

警保局長
警保局警務課長

屆從員

豫備

豫備

七、第四突堤御着

日滿國旗の飜る御道筋に奉送申上げる堵列の市內各小學校、中等學校生徒、在鄉軍人、青年團、國防婦人會など約十萬の熱誠こもる奉送裡に、鹵簿肅々と午前九時三十二分

御召艦比叡、儀禮艦白鷹の皇禮砲轟くなかを第四突堤に御着、元尾神戸稅關長の御先導で、比叡軍樂隊の滿洲國國歌吹奏裡に　皇帝陛下には玉歩いと御輕やかに、兩側に肅然と居並ぶ特別奉送有資格者に御會釋を賜ひつゝ、比叡艦上に整列せる六百二十餘名の乘組員の奉唱する萬歲を受けさせられ、白布に敷きつめられた登舷橋から御乘艦、この時比叡後部大檣頭高く滿洲國軍艦旗はするすると揭げられ春陽に飜る。

この刹那こそ神戸開港以來初めて描かるゝ日滿親和の感激の歷史的光景であつた。

八、御發航御歸還

波靜かなる茅渟の御海路日和　滿洲國皇帝陛下には神戸港より御歸國の途につかせ給ふた。

帝都に於ける我が皇室との歷史的御交歡をはじめ日滿融和の輝かしき御盛儀の數々、國を擧げての熱誠なる奉迎、帝都、京洛、奈良、大阪さては本市など盟邦日本の眞の姿をあらゆる角度より御覽遊ばされ輝かしい御使命を完う遊ばされたのである。

湯澤兵庫縣知事、勝田市長、元尾稅關長、安藤吳防備戰

隊司令官、梶本神戸海軍監督長等は御座所に伺候、謁を賜はつて退艦、午前十時御召艦比叡の巨體は紺碧の海面に白波をけたてゝ岸壁を離れた。

皇帝陛下には御召艦の後部御展望所に御立ち遊ばされ御擧手をもつて奉送に答へさせられ給ふのが拜された。第四突堤Q岸壁に奉送の商大、高工、高商等の各學生の感極まつた洪水の如き萬歳は天を壓し、團體の女學生は第四突堤の突端に集結、日滿兩國旗を打ち振り〳〵御見送り申上げた。

遙かに仰げば　皇帝陛下には御召艦の第一航路通過に至るまで陸と海との奉送に最後まで御名殘りを惜しませ給ふかの如く拜され、貴き御使命を果させられ御印象深き盟邦の地に御限りなき御名殘りを惜ませられつゝ御歸國の途につかせ給ふ。

これより先き御先行申上げる滿艦飾の警衛扈從艦白雲、叢雲、薄雲の全員登舷禮、港内の各船舶また滿船飾で奉送申上げ、湯澤兵庫縣知事、勝田市長、元尾神戸稅關長、梶本海軍監督長等はランチにて、港外まで奉送、御艦列が第一關門にさしかゝるや再び白鷹から射出す殷々たる皇禮砲、滿船飾の各船舶から鳴り響く汽笛、港都神戸よりわきあがる萬歳の聲、晩春の霞の絲に艦影を沒した御召艦は一路宮島を經て御歸國の途につかせられた。

九、一路御安泰を祈り奉る

神戸港を御發航國都新京に向け、御歸還の途に就かせられた　滿洲國皇帝陛下の海上御平安を祈り奉つて、勝田市長は同日午後一時左の無電を御召艦比叡の沈宮内府大臣宛打電した。

謹ミテ　陛下ノ一路御安泰ヲ祈リ奉ル

右言上ヲ乞フ

神戸市長　勝田銀次郎

奉迎後記

一、御歸還御慶祝の御機嫌奉伺

滿洲國皇帝陛下には海路御恙なく、四月二十七日國都新京に御歸還遊ばされたる旨、宮内府大臣沈瑞麟閣下並に、國務院總務廳長遠藤柳作閣下より勝田市長へ入電あり、市長は直に左の通り、沈宮内府大臣並に遠藤總務廳長宛打電し、御機嫌奉伺の執奏方を乞ふた。

貴電拜承　皇帝陛下ニハ御恙ナク御歸還遊サレ候趣慶祝

ニ堪ヘス茲ニ謹ミテ市民ヲ代表シ御機嫌ヲ伺奉ル
右御執奏ヲ乞フ

神戸市長　勝田銀次郎

二、御下賜金拜受

二十二日午前十一時御旅館武庫離宮に伺候したる勝田市長に對し、神戸市奉迎送事務從事員一同へ金五百圓を御下賜あらせらるべき旨の御沙汰があつた

三、市長、助役御下賜品拜受

二十二日武庫離宮に參入し　皇帝陛下の御機嫌を奉伺した勝田市長に對し、御紋章入シガレットケース一個、八木助役に對し、御紋章入シガレットケース一個それ〴〵御下賜の光榮に浴した。

四、記念品の調製

滿洲國皇帝陛下御來訪を永久に記念するため、本市では

七寶寫花生、出石燒茶器セットの奉迎記念品を調製、右記念品中、七寶寫花生は市會議員、奉迎事務關係年俸吏員百十名に、出石燒茶器セットは奉迎事務關係月俸者以下二百九名に贈呈をなした。

附　錄

附　錄

一、滿洲國皇帝陛下御來訪關係事務分掌

祕　書　課

一　御機嫌奉伺及上表ニ關スル事項
二　獻上品ニ關スル事項
三　歡迎會ニ關スル事項
四　各事務ノ連絡統制ニ關スル事項
五　其他各課ニ屬セサル事項

文書課

一 記錄編纂竝之ニ關スル寫眞撮影ニ關スル事項

財務課

一 豫算及經理ニ關スル事項

經理課

一 花火ニ關スル事項

二 車馬、物品及勞力ノ調達ニ關スル事項

會計課

一 御同行ノ宮家ニ關スル事項

二 供奉員接待ニ關スル事項

三 隨行ノ上級官廳職員ニ關スル事項

四 其他關係同行者ニ關スル事項

教育課

一 特別奉送迎ニ關スル事項

二 堵列奉送迎ニ關スル事項

三 旗行列ニ關スル事項

四 國旗掲揚竝市内裝飾ニ關スル事項

商工課

一 産業關係御視察ニ關スル事項

二 産業ニ對スル供奉員御差遣ニ關スル事項

土木部

一 御道筋ニ關スル事項

二　堵列線ノ設備ニ關スル事項

衛生課

一　衛生ニ關スル事項

二　救護ニ關スル事項

營繕課

一　アーチ建設ニ關スル事項

社會課

一　社會事業御視察ニ關スル事項

二　社會事業ニ對スル供奉員御差遣ニ關スル事項

水道課

一　外來者ノ宿舍及接待ニ關スル事項

電氣課

一　電飾竝花電車ニ關スル事項

尙事務從事員職氏名は左の通りである。

神戸市助役　八木林作
同　渡邊靜沖

秘書課

課長　土師俊次
書記　甲斐軍喜
同　伊藤鐵哉
同　增田多十郎
同　富崎義康
同　辻忠雄
書記　岡本包男
書記補　高橋幸男
傭員　松永郁

文書課

課長　門前嘉久一
書記　馬場豐二
同　神崎紀郎
同　瀧本良介
同　西川暎三

書記　小野巖

財務課

課長　三木敏藏
書記　岡崎透
同　人見奎之助
同　粟井肇
同　渡邊美安
同　三國一
同　米富康雄

經理課

課長　大久保禎一
書記　小川薫雄

書記　竹村鍵造
同　糸井房藏
同　堀多平
同　岡部銳郎
同　升味半二
同　磯谷正規
同　名倉隆吉
同　新田延雄
同　長野豐治

會計課

課長　村上金次郎
主事　小西建左衛門

書記　押部豐次
同　毛利欽一
同　小田戸一郎
同　永田久吉
同　能宗竹三
同　和田正人
同　木佐木義人
同　湯本新吉
同　松山清彦
同　山脇行信
同　橋本一男
同　久保源三郎

書記　前田定治
同　吉岡正巳
同　山崎巖
書記補　井島末廣
同　中村隆志
同　阪口秀廣
同　速水實
同　宮下正雄
同　伊藤有

營繕課

課長　井上伉一
技師　平松太郎

技手　吉永榮藏
同　森義弘
書記補　保岡靜
雇員　安東礎

教育課

課長　目良德造
主事　佐々部肇
同　宮脇與市
同　道添哲夫
視學　吉田義一
同　增田綱夫
同　大木義雄

視學　秋田喜三郎
書記　石村勘次郎
同　平間福治
同　山下紋次
同　吉岡順勝
同　後藤國雄
同　伊勢保朗
同　吉田格二
同　佐藤專吉
同　高橋英一
同　田井巖
同　藤井政一

書記　勝賀瀨音嘉
同　谷垣貫一
同　井手上明
同　福田辰次
書記補　佐藤定年
同　米倉修
同　井尻昌一
技手補　坂內正二
雇員　香川敬一
囑託　山口直敦

衛生課

課長　岩田穰

技師　藪內好夫
同　澤谷寅造
主事　出原龜之助
書記　福井壽夫
同　山田寮一
同　藤本留一
書記補　小川弘毅
同　三宅喜一郎
雇員　脇坂光
同　北村忠三
同　仁尾勇
書記　奥西藤治郎

書記　池内武一
同　前田留次
同　定森昇一
同　渡邊喜秋
同　岡井三郎
同　山本正美
同　直原安治
書記補　大谷郁治
同　小柳勝治
同　鎌田一夫
同　須鎗俊吾
同　齋野七吉

技手　稲垣信一
同　橋本德太郎
同　出水吉幸
同　小幡源吉
同　北山利吉
同　佐藤高造
技手補　増井兼太郎
書記補　備瀬眞嘉呂
同　草地半次郎
同　小林金四郎
同　橋口直次
同　岡本佌太

書記補　牧兼雄
同　福島常惠
同　山本克巳
同　横山朋納
同　山本喜榮
同　荻野安治郎
同　田邊實
同　四宮清次
同　梶田秀治郎
同　三苫重藏
同　轟光
同　三口金一

書記補　濱崎佐榮良
同　泰貫平
同　鹽見重藏
同　米谷光造
同　久德德四郎
同　青木利作
同　岡部鶴吉
同　道滿一三
同　山本房義
同　桝谷本吉
同　酒井岩三郎
同　和田重太郎

書記補　伊藤喜章
同　中島米一
同　山本甚六

商工課

課長　西作市
技手　岡本光次

社會課

課長　木村義吉
主事　水谷貫一
同　横山新作
同　山田實
書記　北林實
書記　井上增吉
同　熊田雄二
同　佐野勝美
同　田中勳
同　高橋富久雄
同　山内喜内
同　大西雄一
同　岡本房男
書記補　森本義治
同　平田榮
雇員　安國幸恭

水道課

課長　關源三郎
書記　齋藤熊吉
同　原田萬平
技手　濱野芳太郎
書記補　織田利通
雇員　小谷利右

土木部

土木部長　荒木文四郎
土木課長　富田惠四郎
技師　井口眞造
書記　藤岡秀一
同　窪田一郎
技手　齋尾壹岐
同　寺内厚
同　岩崎久作
同　石川昇吾
同　谷家義雄
同　主田筆吉
同　開甚朔
同　近藤久吉
同　丹後吉雄
同　塚野敏太郎
技手補　井上庄太郎
同　渡邊清次

技手補　米光正吉
同　大前德二
同　水野孝市

電氣局

電氣局長　杉野繁
營業課長　桐村早太郎
電氣課長心得　前田利雄
主事　三輪清
技師　得田與義
同　堀川榮治
同　長谷川勇雄
同　松岡承次

技師　小澤善次郎
書記　大山三男也
同　荒井太郎
同　伊藤喜助
技手　平原准晃
同　永瀨和嘉一
同　村木喬
同　稻垣鷹雄
同　祖田源左衛門
同　大石爲貞
同　宇廢谷敎潤
同　新改孝太郎

技手　武野弘
同　櫻井楠一
同　讃井毅一
同　牛尾健次
同　米田德太郎
同　南方岑志
同　田中末吉
同　立場重太郎
同　友松春雄
同　下村正男
同　安本健助
同　藤田美夫

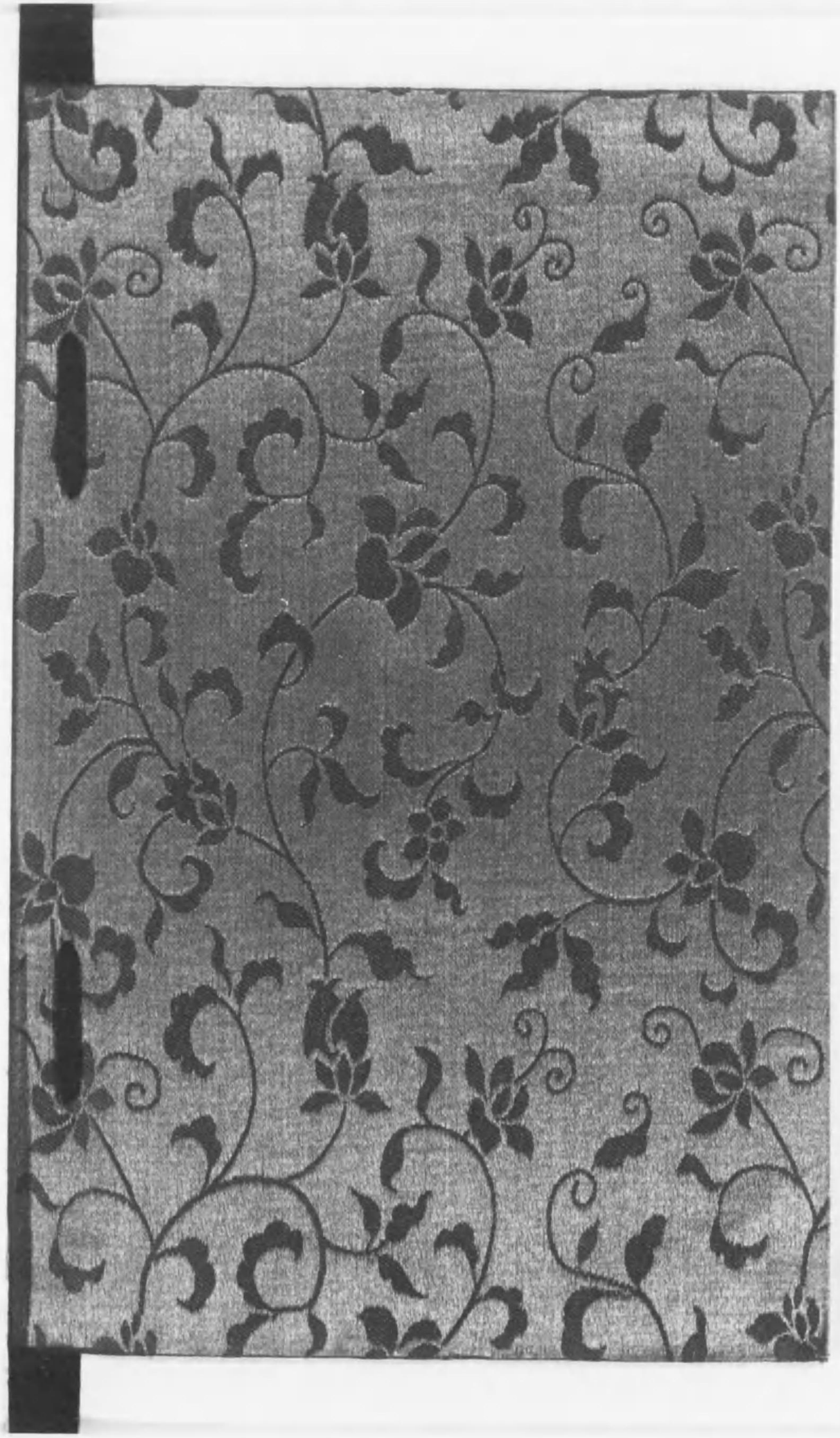
技手　木村彥三郎
同　竹井賴興
同　小畑球陽
書記補　木村貞吉
技手補　松下梅一
同　佐方淳
同　坂本四郎
同　濱本文雄
同　酒井治
同　飯田國太郎
同　市川保一
同　竹內熊吉

技手補　江川清松
同　杉江美之助
同　大野耕三
同　井澤隆

昭和十年十月十日印刷
昭和十年十月十五日發行
（非賣品）

編輯兼發行所　神戸市役所
神戸市神戸區花隈町三二三
印刷者　松井梅藏
神戸市神戸區花隈町三二三
印刷所　松井印刷所

複製不許

302
162

終